AIでは辿り着けない“現地で学ぶ探究”へ

―行事を探究へ転換する自治体連携×職場体験×観光大使の挑戦―

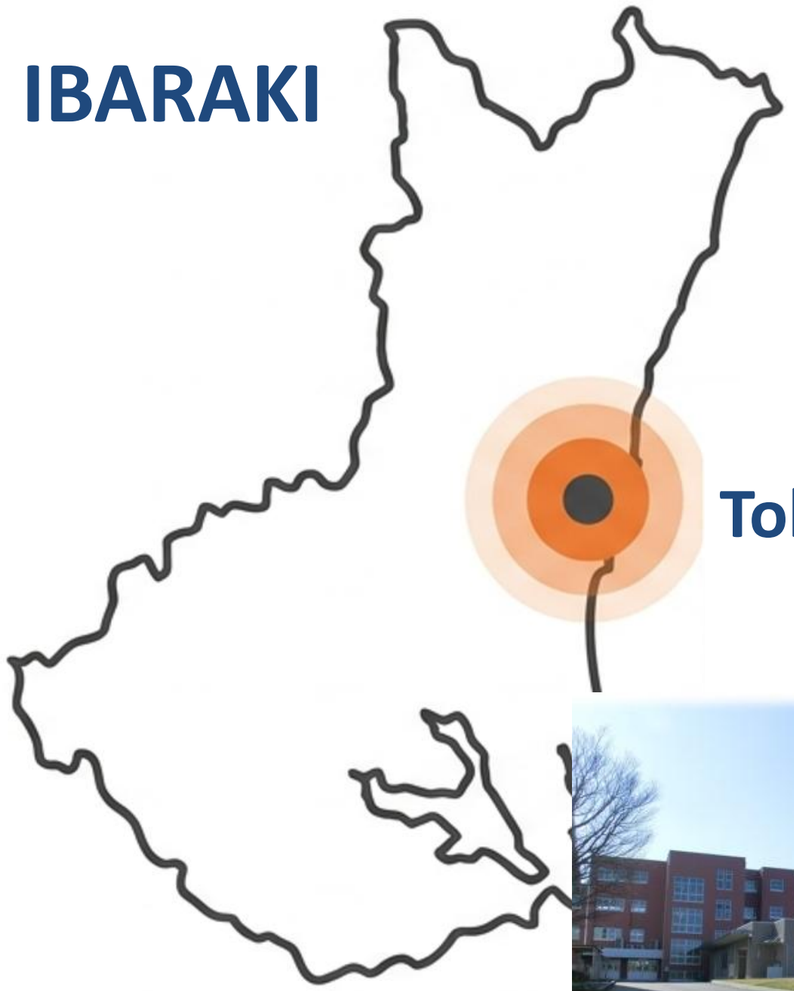
東海村教育委員会指導室　指導主事
石川 友康（前・東海村立東海南中学校 学年主任・教務主任）







舞台は、最先端科学と豊かな自然が交差する街　茨城県東海村・東海南中学校





東海南中学校
（全校生徒約６００人/１学年約１９０名）

日本初の原子力拠点

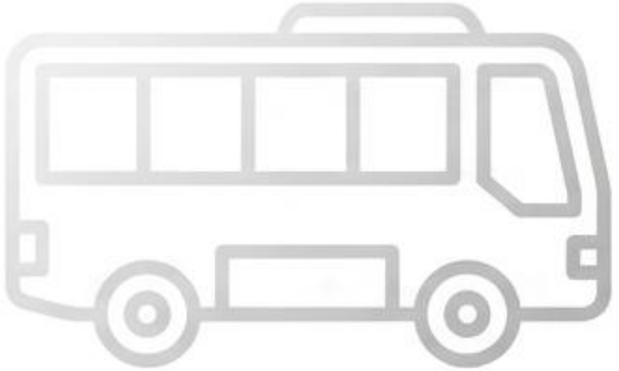
太平洋・久慈川

干し芋等の自然・農業

村内基盤：小学校6校・
中学校2校

前例踏襲の限界：「ただの思い出」と「教員の疲弊」

Student Side



【行事の形骸化】
東京遠足が単なる「観光」に。
「楽しかった」で終わる受け身の体験。

Teacher Side

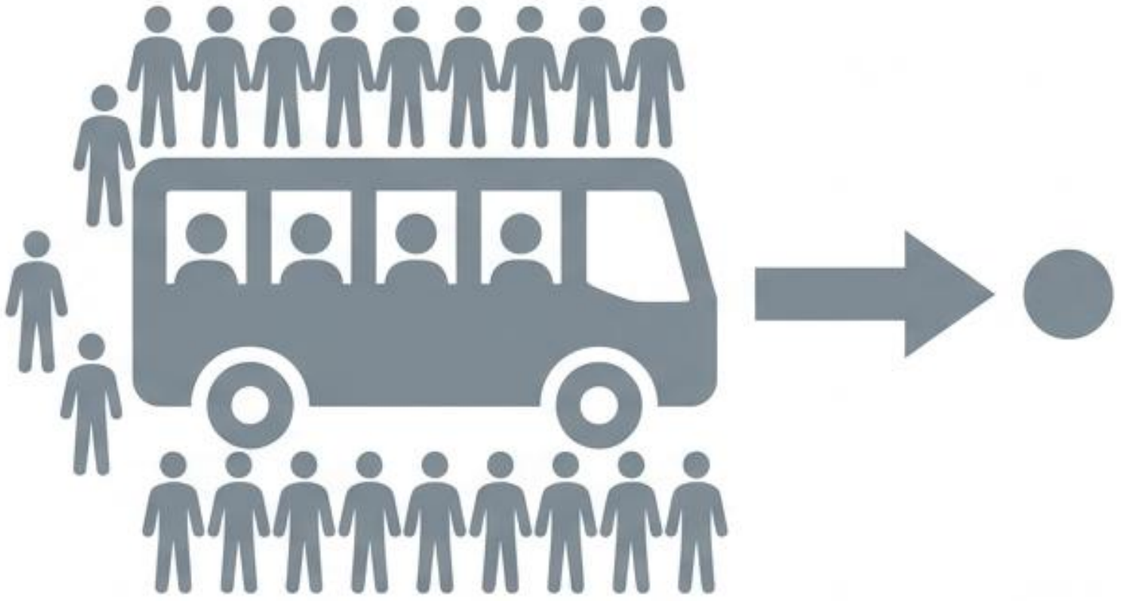


【教員の疲弊】
「毎年やっているから」という前例踏襲の罠。膨大な手配業務による負担増。

「前例踏襲の遠足は、もうやめよう！」

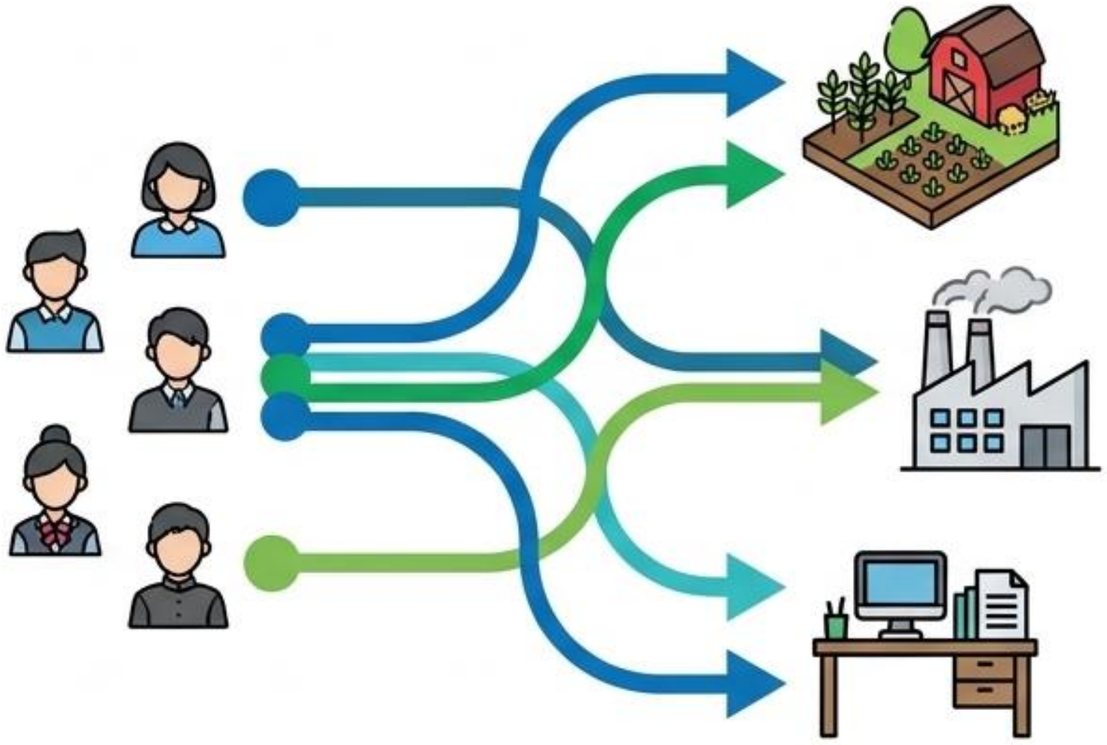
行事の構造改革

「全員同一」



受け身の見学・遠足

「それぞれ違う場所への自己決定」



興味・関心に応じた
主体的な学びへの転換

目指す「将来的な目的」



3年間のゴール（中学校卒業時）

「東海村について3分間、
自分の言葉で語れる姿」



その先の目的（未来の担い手）

自分の街に誇りを持つ

「いつかこの街に帰りたい」
「離れていてもこの街を想い、
つながり続けたい」

外部パートナーとの出会いと「ビジョンの共有」

“「生徒が自ら選び（自己決定）、現地で本物の一次情報から学ぶ探究をつくる」”



一本の太い軸でつなぐ、
3年間の系統的ストーリー

1年生
【知る】

自街を知る・足で稼ぐ
（チャリラリー）

2年生
【比較する】

外と比較する・当事者になる
（他地域探究 / 観光大使）

3年生
【提案する】

自街の未来を創る・提案する
（政策提案プレゼン）



3年間の出口ゴールと、その先に描く未来



中学校卒業時



将来・未来

「東海村について**3分間**、
自分の言葉で語れる姿」

「いつかこの街に帰りたい」
「離れていても街を想い、
つながり続ける」

単なる知識の暗記ではなく、未来の担い手としての「誇り」を育む3年間。

1年生の実践：汗をかき、大人の「熱」に直接触れる



チャリラリー（TOKAI発見旅）

- 自らの足（自転車）で村内を巡る
- 地域の事業所を訪問し、働く大人の「生の声」を直接聞く

生徒たちの価値観の書き換え

「大人って、思っていたより悪くないな」

「働く大人って格好いい！」

教室のプリントでは決して動かない心が、泥と汗と大人の生き様で劇的に変わる。

3年生の実践：自街の未来を創り、提案する

地域の大人へ向けた「主体的な政策提案」



比較検証を経た、最高のアウトプット

自分たちの考えを主体的な言葉にまとめ、
地域の大人へ向けて直接「政策提案」を行う。

他地域での比較（2年生）

↓

自街の価値の再発見

↓

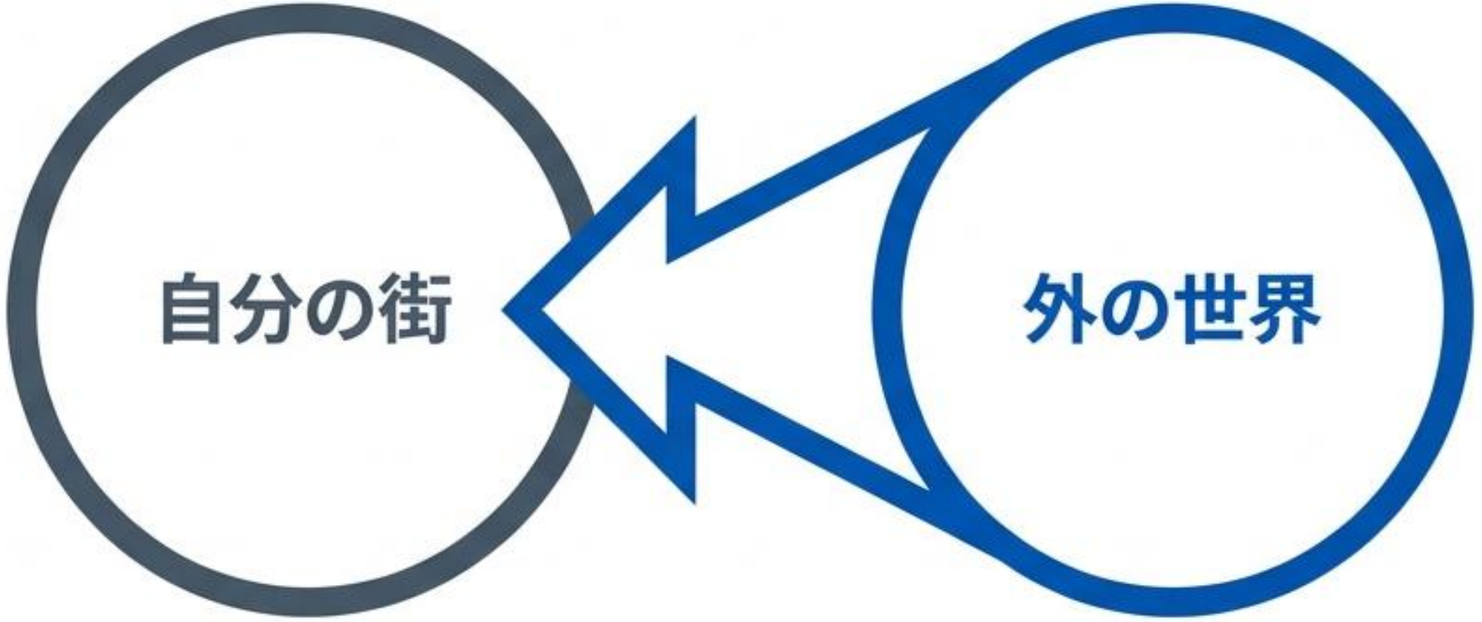
地域の大人への直接提言（3年生）

「受け身の生徒」が、地域の未来を創る「当事者」へと変わる瞬間。

いかにして、この飛躍的な成長は生まれたのか？（次章：2年生の4つの仕掛けへ）

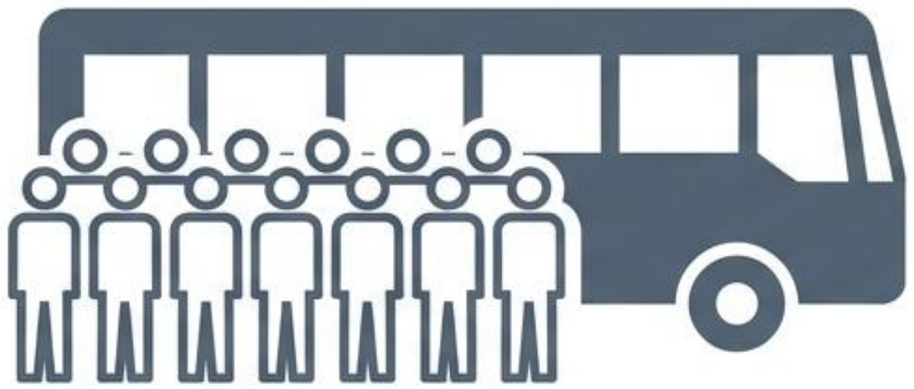
なぜ2年生で「他市町村比較」を行うのか？

「外」を知って初めて、「内」の価値に気づく。

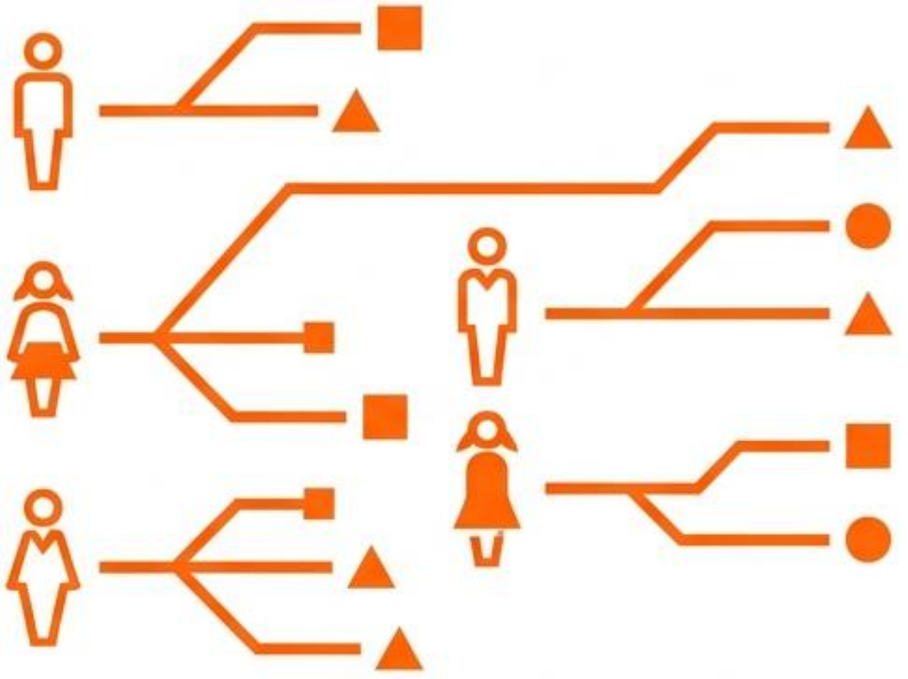


比較対象があるからこそ、自街の「独自価値」「強み」「課題」が立体的に見えてくる。

仕掛け①：行き先の「自己決定・自己選択」



「全員同一」の行事



「自己決定・自己選択」の探究

「やらされる見学」から、「自分が決めた探究」への劇的な転換。

仕掛け②：「観光大使」という役割設定

「ただの生徒」ではなく、「魅力発掘のミッションを背負うプロ」へ。



中学生　＋　観光大使のタスキ/バッジ　＝　当事者意識

役割が、責任感と当事者意識を引き上げる。

仕掛け③　Web「note」での主体的なアウトプット

【× 脱却】

先生への提出物(プリントアウト)



先生への提出物
(プリントアウト)

➔ 自己満足で
終わる学び

【○ 挑戦】

Webメディア「note」を活用したPR発信



➔ 社会へ向けたダイレクトな発信

「見られる」緊張感が、情報の質（ファクトチェック・リテラシー）を高める。

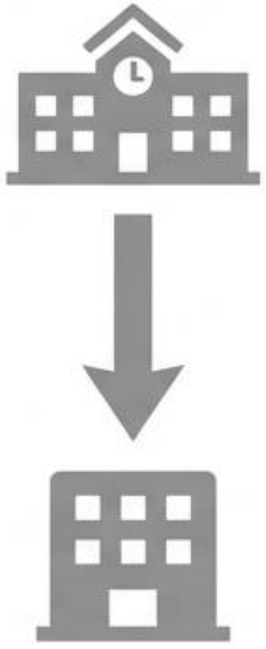
仕掛け④　地域の大人による「本気の審査・評価」



赤ペンではなく、現場のプロからの評価が最大の承認となる。
成果：独りよがりな表現を脱し、「相手にどう届くか」を前提としたコミュニケーション能力の開花。

全ての出発点は「生徒の想い」

毎年同じ場所へ行く「固定型」から、問いに合わせて変化する「可変スキーム」へ



従来：学校主導の固定ルート



本実践：生徒の探究テーマを起点としたフレキシブルな連携

前例踏襲の行事ではない。生徒の情熱が、毎年の学びのフィールドを創り出す。

Gemini Notebook

地域探究 × 職場体験プログラム

実際の校外学習の様子（紹介動画）



YouTubeで検索
アーストラベル水戸 職場体験

【アーストラベル水戸】　職場体験× 地域探究 校外学習 / 東海村立東海南中学校

出典：アーストラベル水戸公式YouTubeチャンネル　URL：https://www.youtube.com/watch?v=1SN-DZqt6Tw

【事例①】課題解決のアイデアと、現場が抱える真実

大子町 ── 農業×アイデア



【体験（Input）】
観光りんご園でのフィールドワーク・取材



【一次情報・洞察（Insight）】
台風等で落ちた「傷ものリンゴ」の6次産業化と、摘果リンゴの装飾再利用を自ら考案。（役場担当者から極めて高い評価を獲得）

かすみがうら市 ── 工業×意識改革



【体験（Input）】
フィルム工場の見学・現場ヒアリング



【一次情報・洞察（Insight）】
「表面的な脱プラ推進よりも、ボイ捨てをする人間の意識改革こそが本質だ」という現場の真実に基づく鋭い考察。

【事例②】生産現場のスケールと、組織のリアル

河内町 ── スケール×経済



【体験（Input）】
78haにおよぶ大規模稲作農家への密着取材



【一次情報・洞察（Insight）】
数千万円単位の農機具コストというシビアな現実を知り、「国産米を選ぶことが日本の農家を支える第一歩」と消費者視点で発信。

五霞町 ── 組織×五感



【体験（Input）】
地元企業と養蜂場の見学



【一次情報・洞察（Insight）】
「壁のないワンフロア組織」による活発な交流構造への驚きと、季節ごとに異なる生ハチミツの風味の違いを五感で直接実感。

【事例③】自ら動くSDGsと、伝統・歴史の体感

神栖市 ── 環境×主体性



【体験（Input）】
甘いミニパプリカ農家と市民風車の取材

【一次情報・洞察（Insight）】
誰かがやるのを待つのではない。「自分で動くSDGs」の本質を、市民主導の風車から体得。

古河市 ── 歴史×一次産業



【体験（Input）】
養鶏場・老舗茶園・歴史博物館への連続訪問

【一次情報・洞察（Insight）】
歴史と一次産業という多様な体験を横断し、自らの言葉で街の魅力を再構築して発信することに成功。

自己満足からの脱却：社会とつながる「他者意識」の醸成

現場の熱い大人たちからの評価が、生徒の学びを完結させる

「お世話になった熱い大人たちに自分の記事（note）が届く緊張感と期待感が、強烈な『他者意識』を生み出す。」

自治体担当者

「ネット検索のコピペではない。現場でしか得らない生の情報を、自分たちの言葉で簡潔に見事にまとめている。」

地元事業者

「私たちの抱える泥臭い課題に対し、中学生が本気で向き合い、独自の提案をしてくれたことに驚かされた。」

AIでは辿り着けない領域

現場の匂い、手触り、大人の熱量（一次情報）に触れることで生み出されたアウトプットは、大人たちの心を確実に揺さぶった。

学校改革が生み出した「三方の変容」

― 単なる行事の転換を超えた、根本的なパラダイムシフト ―

生徒



受け身の消費者

自ら創る当事者へ

自身の問いに基づく「当事者意識」と、学びを社会へ届ける「他者意識」の劇的な向上。

教員



枠にはめる手配・管理

生徒に寄り添う『伴走型』へ

膨大な手配事務の負担から解放され、本来一番やるべき「学びの伴走」への完全シフト。

地域



単なる見学先

本気の『教育共同体』へ

大人の熱（一次情報）に直接触れる場となり、地域全体が「共育のステージ」へと進化。

「東海南中モデル」の村内横展開

推進体制

強力なタッグの結成



行政の垣根を超えた連携体制の構築により、単一校の取り組みを村全体のプロジェクトへ昇華。

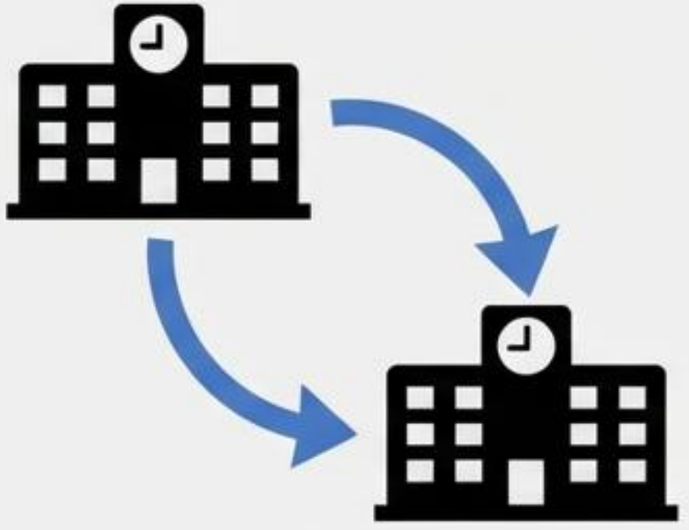


モデルの標準化と波及

東海南中で実証された「一次情報を重視する探究」の成果を抽出・体系化。

波及先と実装

村内全中学校への展開



小・中・高12年をつなぐ「とうかいっ子育成プラン」



未来を担う人材育成と「関係人口」の創出

持続的に地域と関わり続けるマインドセットの確立

【小学校（6年間）】

地域愛の醸成

郷土を知り、親しむ土台作り
（「郷里かるた」等を通じた原体験）

【中学校（3年間）】

深掘り・比較・提案

外の世界と比較することで
自街の価値を再発見し、
地域の大人へ直接提案する
（東海南中の実践フェーズ）

【高等学校（3年間）】

専門探究への接続

より高度で専門的な地域課題の
解決へ向けたアクション

共創的進化の広がり：次期学習指導要領の体現と「シゴトリップ」の全国展開

次期学習指導要領の目指す姿

国の目指す教育の方向性を
現場レベルで見事に体現。

「社会に開かれた本物の問い」 × 「個別最適な学び」 × 「小中高の系統的接続」

「現場で泥臭く挑んできた実践が、まさに国の次期指針を体現」

『シゴトリップ』として体系化

アーストラベル水戸 × 東海村

茨城県内への拡大

全国の学校・地域へ波及

【現在進行形の挑戦】学校現場、地域、企業、多様な関係機関と膝を突き合わせ、今この瞬間も対話とブラッシュアップを継続中。

まとめ ｜ AI時代だからこそ「現地で学ぶ探究」を！



【画面上の知識（AI）】

瞬時に答えは出るが、心は
揺さぶられない（二次情報）



【現場での体験（一次情報）】

泥の匂い・手触り・本気の大人の熱
➔ AIでは絶対に辿り着けない領域



五感で取りに行く「一次情報」
こそが、生きる力の根っこになる



これからも子ども第一で、
学校と共に未来へ伴走し続けます。